

無限の祝福の時 バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティ イーシャ・サーデサイ

シッダ・ヨーガの道の8月の紹介の中で、グルマリーが今月の焦点として瞑想とマントラ・ジャパの修行を与えてくれたことをお伝えしました。ですから私たちは、この焦点と8月のシッダ・ヨーガのそれぞれの祝祭日との間に関連性を見つけることができます。

それらの祝祭日の最初のものは、バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティです。太陽暦では、バデ・バーバのプンニャティティは8月8日で、太陰暦のプンニャティティはその翌日、8月9日です。私の8月の紹介の中でもお伝えしたように、バデ・バーバのプンニャティティは彼が亡くなった日、1961年に彼が肉体を離れ、至高なる意識と一体となった日を記念する日です。教典、『ヴィヴェーカチューダーマニ』の中で、偉大な賢人アーディ・シャンカラチャーリヤは、悟りを得た存在が肉体を離れることの真の意味を、より深く理解するための比喩を示しています。アーディ・シャンカラチャーリヤはこう述べています。

土のつぼが壊れると、その中の空間は、外に広がる無限の空間と一つになる。同様に、外側の姿が消滅すると、ブラフマンを知る者はブラフマンそのものとなる。¹

バデ・バーバは、今も、かつて、そしてこれからも、永遠に私たちの世界にあまねく存在する至高なる意識と一つです。肉体は移ろいゆくものかもしれませんが、グル・シャクティはそうではありません。だからこそ、バデ・バーバの存在とその祝福は、65年がたった今もなお、私たちと共に鮮やかに息づいているのです。（インドの伝統やシッダ・ヨーガの道において、なぜ偉大な存在のプンニャティティを祝うのかをさらに学びたい方は、ウェブサイトに掲載されているこのテーマについての解説をぜひお読みください）

バデ・バーバのことを思う時、特にバデ・バーバのプンニャティティの日には、私の心はよくグルマーイの美しい詩、「形のない神殿」を思い浮かべます。この詩の中でグルマーイは、宇宙全体がバデ・バーバのテンプルであると——そして私たちは、例えば自然の美しさの中にバデ・バーバのダルシャンを受け取ることができる——語っています。そうすることは、「目を開けたまま瞑想すること」だと、グルマーイは説明しています。

初めてこのグルマーイの詩を読んだ時に感じた畏敬の念を、私は覚えています。この詩は、バデ・バーバとは誰であり、誰であったのかについて私の理解を広げると共に、シッダ・ヨーガ瞑想とはどのようなものであり得るのかという認識も広げてくれました。シッダ・ヨーガ瞑想は、私たち自身をこの世界から引き離す必要のない修行です。私たちはこの世界の中で、そしてこの世界と共に瞑想することができます。実際、私たちの瞑想の修行は、この世界によって「触発される」ことさえあります。グルマーイはその詩の中で、自然界に存在するもの——さらには人が作ったもの——を通して、バデ・バーバの存在とつながることができる数多くの例を示しています。それらすべてのものの中に、私たちは根底にある大いなる意識、

すなわち、瞑想する時に私たちが探し求め、触れようと努めるまさにそのエネルギーを、感じ取ることができるのです。

もちろん、世界をこのように見るためには多少の努力が必要かもしれません。音の中の沈黙を、活動を支える静けさを聞き取るためには。だからこそ、シッダ・ヨーガの道において、この気づきに至るための直接的な手段をグルが私たちに授けていることは、この上なく幸運です。私たちは、マントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤを与えられているのです。

バデ・バーバは、彼の元を訪れた探究者たちにこのマントラを授けました。バーバ・ムクターナンダがシャクティパートの伝授を受け取ったのは、まさにバデ・バーバがこのマントラを分け与えたことを通してであったことはよく知られています。バデ・バーバは、マントラを繰り返し唱えることによる多くの成果の一つに、一体感の体験があると教えました——すなわち、神との一体感、グルとの一体感、そして外側の世界と自分自身の内側の世界との一体感の体験です。

私がマントラ・ジャパを愛してやまないのは、それが実質的にどこでも行える修行だからです。そして、いわばマントラを「自分と共に」持ち歩く時——つまり日々の生活の中でマントラを思い出し、繰り返し唱える時——私はしばしば、バデ・バーバが語るこの一体感の体験を垣間見ることがあります。例えば、グルマリーが私たちにジャパ・ウオークを勧めたことを思い出します。グルマリーはシッダ・ヨーガの道のウェブサイトを通して、私たちをジャパ・ウオークに「彼女」と一緒に参加するよう招いたことさえあります！ 私は歩きながら心の中で静かにマントラを繰り返していると、やがてマントラがあらゆる場所から、「かつ」どこからともなく響い

てくるように感じられることがあります。それは風にそよぐ木々の中にあります。それは水面で踊る陽光の中にあります。それは私の足音の中に、そして私の鼓動の中にあります。マントラは、私の周りにある無数の形の中に、その姿を現すのです。

私たちの精神的な修行は周囲の環境がいつも完全に静かで穏やかであることを条件としないというのは、解放感を感じませんか？ インドの教典は、この世界そのものが音の推進力によって、原初の音オームから生じたと説いています。最近、私はグルマーイから、花でさえ咲く時に音を発することを学びました。その音の周波数は、私たちが耳だけで聞き取れる範囲を超えていますが、それでもなお、その音は存在しています。あるレベルでは、それは響き渡っているのです。バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティにあたり、この世界を見回し、そのすべてがバデ・バーバの住まいであり、彼のテンプルであり、無数の形を与えられた形なきものであることを思い起こす時、これは心に留めておくべき素晴らしくも刺激的な知識です。



© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹ *Viveka-chudamani*, verse 565; English translation © 2026 SYDA Foundation®.